

報 籠屋新聞

報 籠屋新聞社
 〒299-2854 千葉県代々木三丁目
 〇四・七〇九三九二二

にぎにぎしく

南風語り

4月11日 東京 梅ヶ丘

鹿嶋

神楽 柳 堀村

が 取 廻 場

奄美 島

梅も散りかね、肌寒さの残る中で

「オオの南国語り」が始まった。会場

となった。ギャラリーガラ(梅ヶ丘)に三〇人

が集まってくれた。タイの王族が着

るようなハデハデ袴が似合うのか、

似合わないのか、そんな衣装で現れ

れた当社社主は、たみ吉高く「東

シナ海の贈与」を語り出したのである。

「贈与論」がその場から消えてしま

とこまよと思ったのか、社主は初めに

ことわりを入れた。

「これからお話しすることは、わたしが

以前に住んでいた島(トカラの群

島)から 離れないつもりですが、聞

いていて 退屈したら、どうか遠慮なく

中途退出していただいてけっこうです。

それが語り手に失礼になるところか、

反省材料にもなりますから、

気の毒なのは三〇人の方々である。

こう言われると、あうがじめ釘を刺

されたようなもので、最後までこのま

ま合いとなった。

△ △ △ △ △

竹敷越しに飛んで、大根が、はて

マシセル・モース(注)の言うように「反社

の強制」なのかどうか、という命題が

「スナヒバーク」 (中村元記)が

人が悲しむのをやめたいならば、ますます
 苦悩を分けることになる。そこはわたしの
 ことと嘆きなさい、悲しみにうたをまわした。

ら始まった。夜の魚突きを終えて明け方に
 帰宅すると、突然、竹敷越しに二本の
 大根がこたらの裏に投げつけられた。
 隣りのバアが「魚を分ける」と無言

於 ガラリー・ガラ

会場風景



PHOTO 燕川 健一 2009. 4. 11.

の催促をしたのである。社主は、魚を分けることには何の^拒抗もなかったが、処分権の行使は、魚を捕ってきた者の意志に任されるべきだとこだわった。これが都倉から送られてきた者の習性である。

その後の考えの中でのわがこととは、それは「強制」ではなく、「ソウダン」相談である、ということだった。島で暮らしている限り、若くまた、少しでも魚が捕れる者は、いつでも「ツクリダシ」作出の二員としてとらえられ、獲物を分けるのは言わずもがなの行為である。社主は、平常心でさう結句した。ただ、外堀を埋めながら本丸を迫っていくには、「ヤラなる精進モノ」との裏声がか会場に漏れていたのも、身底に落着いた。九の分の話と終え、社主は、

にも深く頭を~~垂~~れた。垂れながら、^に国と使う。

「調査する」とはあっても、せざるにせよ、なにもオマケ、この贈与論を捧げた」と。

(注) マルセル・モース（一八七二—一九五〇）フランスの社会学者で文化人類学者。『贈与論』の著者である。



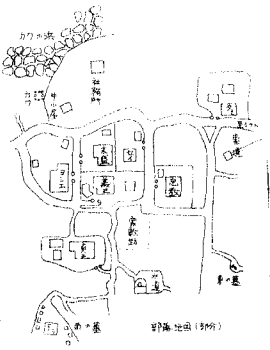
お知らせ

カニ回「ナオの南風語り」
題「臥蛇島暮し」
五月二三日（土）午後三時
会場：ギャラリー・ガラ

小田急線梅ヶ丘
お話の内容は別紙にや
びります。

お知らせ

カニ回「ナオの南風語り」
題「平島放送速記録を読む」
七月四日 午後三時
会場：ギャラリー・ガラ（梅ヶ丘）
（お知らせ終り）



臥蛇島部落地図 (部分)

日本海時代の祭典六月例会
テーマ：南島トカラの生活と習俗を
講師：藤屋新聞社社主
場所：港区生涯学習センター303号
新橋駅前鳥浜口改札五分

日時：六月二十七日（土）午後二時～時半
会費：八〇〇円
連絡先：東京事務局 安達桂
〇田二七四二六・七四九六
gak.01302@mifty.com

カゴ屋日記

地下鉄東西線の鉄橋が遠くに
見える堤に出た。その橋よりも
さらに下流は東京湾と
ひとつに溶け合っている。
カゴ屋はゴザを広げて腰
を落す。数メートル下の流れ
には草葎がやせ細って江さる。
微風で小波が生まれ、枯れ

田舎形ゴッコ

江戸川堤

数日続いた雨が上がり、空気が
真新しくなる。カゴ屋も真新
しくなる。思い立ち、春の川園に
頬をなでてもらいたくなった。カゴ編
み道具とゴザを抱え、江戸川の堤
に出かけることにした。JRの市川
駅から歩いて五分も行けば堤に当
り、地下鉄の、というも地上と走る

道志川源流近くの河原で



PHOTO 葉川 優一

て灰白色をした茎の間を渡っていく。
カゴ屋は、さっきから気になっていた。
近くで、川面を見下ろしている男がいる。
カゴ屋が仕事道具を取り出すと、
男はそれとなく近寄ってくる。カゴ
屋が男の手に顔を向けると、先方は
見下ろす姿勢は崩れないうまま、体
を遠ざける。カゴ屋が下を向いて
カゴ編みを始めると、また寄って
くる。何が始まるのか気になるこ
ろ。



PHOTO 石川 剛

もう一度男に視線を注ぐ。男はカゴ屋の
視線に弾かれるようにして、先と同じ動
きくり返した。カゴ屋は自分よりからアヤサ
ンしようかとも思ったが、止めた。無言のやり
取りを何回できるか、試してみたくなった。
五回、正確には五回半続いた。五回目の
男の接近の後、カゴ屋は道具を脇に置
いて、右マニカコミックと手に取った。道
みずで拾った雑誌である。カゴ屋は相
手の動きが気になり、目は紙面を上滑
りするばかりである。
相手はあきらめたふうで、遠くに消えた。
カゴ屋は気弱ごと共になめ合えなかつた
うしろめたさが残った。

R. H. Young, Professor

「隠れた日本研究家 Young ホーリー」

「日本を知る」
社説

「文字として多くを後世にのこさなかつた学者」

者 Young, ホーリーの業績を知るこの

手がかりは、四歳若友人のグリークの文章にみるしかない。グリークは外交官であり、

一九二五年には、陽白オランダ大使と勤めた人である。モヌメント・ニコニコ山(日本文化誌堂取書)の創設者のひとりである。

もある。

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

読書

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

ても、在日の友人に対しても、自分の故郷書道と自由に関心し、また、専門の忠告を与えることと惜しまなかった。資料として必要な稀覯本があれば、わざわざ自分から探しに出かけることもした。

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

ついでに論文とほんと書きたあつたことがあった。資料として江戸期の稀覯本が一冊だけ、ほかは手に入らない。やうと手にした本には虫穴があつた。それも修理してもうまるとは気がなつた。三冊、南へ気にはない。三冊、後に修理されたのだが、そのときは新たな資料を必要としていた。友人のグリークは「度々、難く完全主義者」と笑つた。

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

「重要なことは、その主張がなされたというこゝとあつて、誰がやったのかということは大したことはない」

ユウリヨウツラコクノスペース・ゴボシヨカリスシチアタムアスハナイレズン

- 日琉境界の島一臥蛇島の手当金制度 (CD 版本) NJS 出版刊 税込価格 1995 円 送料 100 円
- 東シナ海の贈与—1967 年～1977 年のトカラ諸島・平島 (CD 版本) NJS 出版刊 税込価格 1995 円 送料 100 円
- 稲垣尚友作品集 1 地図から落ちた島へ 風土記刊 税込価格 3000 円 送料 340 円
- 埋み火 南島尚歯譚 れほん刊 税込価格 1500 円 送料 290 円
- 十七年目のトカラ 島社刊 税込価格 1800 円 送料 290 円
- 密林のなかの書齋 島社刊 税込価格 2000 円 送料 290 円

良心のかたまりのような版元 NJS 出版の取扱い書籍は、お申込の同封の振替用紙を